

日付	学科	学年	番号	名前
/				

## 第1章 6 「ガウスの発散定理」 第3回

1. 平面  $x = 0$ ,  $x = 1$ ,  $y = 0$ ,  $y = 2$ ,  $z = 0$ ,  $z = 4$  で囲まれる立体  $V$  の表面を  $S$  とするとき、ベクトル場  $\mathbf{a} = (xy, x + 2yz, zx^3)$  の  $S$  上の面積分  $\int_S \mathbf{a} \cdot \mathbf{n} dS$  の値を求めよ。ただし、 $S$  の単位法線ベクトル  $\mathbf{n}$  は、 $S$  の外側を向くものとする。
2. 原点  $O$  と 3 点  $(2, 0, 0)$ ,  $(0, 3, 0)$ ,  $(0, 0, 4)$  を頂点とする三角錐  $V$  の表面を  $S$  とするとき、ベクトル場  $\mathbf{a} = (2x - 3xyz, 4y + y^2z, \frac{1}{2}yz^2)$  の  $S$  上の面積分  $\int_S \mathbf{a} \cdot \mathbf{n} dS$  の値を求めよ。ただし、 $S$  の単位法線ベクトル  $\mathbf{n}$  は、 $S$  の外側を向くものとする。
3. 原点  $O$  を中心とする半径 3 の球面を  $S$  とし、球面  $S$  に囲まれた立体を  $V$  とする。このとき、ベクトル場  $\mathbf{a} = (x^2 + 4x, -2xy + 4yz, -2z^2)$  の面積分  $\int_S \mathbf{a} \cdot \mathbf{n} dS$  の値をガウスの発散定理を用いて求めよ。ただし、 $S$  の単位法線ベクトル  $\mathbf{n}$  は、 $S$  の外側を向くものとする。
4. 3 平面  $x = 0$ ,  $y = 0$ ,  $z = 0$  とベクトル関数  $\mathbf{r} = (u, v, \sqrt{1 - u^2 - v^2})$  ( $D : 0 \leq u \leq 1, 0 \leq v \leq 1$ ) で表される曲面  $\mathbf{r}$  で囲まれた立体  $V$  の表面を  $S$  とする。このとき、ベクトル場  $\mathbf{a} = (3x, 2y, y + 5z)$  の面積分  $\int_S \mathbf{a} \cdot \mathbf{n} dS$  の値をガウスの発散定理を用いて求めよ。ただし、 $S$  の単位法線ベクトル  $\mathbf{n}$  は、 $S$  の外側を向くものとする。